

平成29年11月28日  
(2017年)

保護者の皆さまへ

吹田市立山田第五小学校  
校長 清水 洋子

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成29年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月下旬に個人ごとに結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### ●国語《概要》

##### ◎国語A（『知識』に関する問題）

- ・本校児童の平均正答率は、全国値をやや上回っている。
- ・「書く」領域以外は全国値を上回っている。

##### ◎国語B（『知識の活用』に関する問題）

- ・本校児童の平均正答率は、全国値とほぼ同じである。
- ・「話す・聞く」「書く」「読む」のすべての領域において全国値とほぼ同じである。

#### ●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

##### 話すこと・聞くこと

- ・国語Aは全国値を上回っており、国語Bは全国値とほぼ同じ。
- ・互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことができている。

- ・目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題が見られる。

#### 書くこと

- ・国語Aは全国値をやや下回っており、国語Bは全国値とほぼ同じ。
- ・目的や意図に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読むことができる。
- ・手紙の構成を理解し、形式通りに書くことに課題が見られる。

#### 読むこと

- ・国語Aは全国値を上回っており、国語Bは全国値とほぼ同じ。
- ・俳句の情景を捉えることはできている。
- ・自分の考えを広げたり、深めたりするための友だちの発言の意図を捉えることができている。
- ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることに課題が見られる。

#### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・全国値をやや上回っている。(国語Aのみ出題)
- ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができている。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字は、覚えている漢字にばらつきが見られる。

#### ●国語科における今後の改善点について

##### ◇主な課題

- ①場に応じた適切な言葉で自分の考えを発表すること。
- ②手紙の構成を理解すること。
- ③物語の登場人物の心情や場面についての描写を読み取ること。
- ④既習漢字を正確に書いたり、読んだりすること。

##### ◇指導の改善ポイント

- ※ロールプレイ活動をしたり、普段の生活の中での話し方を指導したりして、場に応じた言葉遣いができるようにする。
- ※実際に手紙を書く機会を作り、手本を参考にしながら手紙の構成を理解するために繰り返し練習する。
- ※読書活動（朝読や読み聞かせ等）の時間を十分に確保し、多くの作品に触れることで登場人物の心情を考える機会を増やす。
- ※既習漢字の読み書きの定着を図るために、山五漢字検定などを繰り返し行う。

●算数《概要》

◎算数 A (『知識』に関する問題)

- ・本校児童の平均正答率は、全国値を上回っている。
- ・「量と測定」「数量関係」の領域においては全国値とほぼ同じであったが、「数と計算」「図形」の領域においては全国値を上回っている。

◎算数 B (『活用』に関する問題)

- ・本校児童の平均正答率は、全国値を上回っている。
- ・「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のすべての領域において、全国値を上回っている。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

- ・算数 A・B ともに、全国値をやや上回っている。
- ・単位量あたりの文章問題を図に表すことが、よくできている。
- ・わり算の答えを分数で表すことに、課題がある。

量と測定

- ・算数 A は全国値とほぼ同じで、算数 B は全国値をやや上回っている。
- ・かさや重さ、長さを調べるときに、もとにするものを決めて量る方法は、概ね理解できている。
- ・高さが等しい平行四辺形や三角形は、底辺が半分になると面積も半分になることを理解することに、課題がある。

図形

- ・算数 A・B ともに、全国値を上回っている。
- ・正五角形は 5 つの合同な二等辺三角形でできていることを、よく理解している。
- ・立方体の展開図から平行になる面を選ぶことに、課題がある。

数量関係

- ・算数 A は全国値とほぼ同じで、算数 B は全国値をやや上回っている。
- ・もとにする量と比べられる量の関係を表している図を選ぶことが、よくできている。
- ・表を読み取って合計欄に入る数を求めることに、課題がある。

●算数科における今後の改善点について

◇主な課題

- ①わり算の答えを分数で表すこと。
- ②図形の面積を求めること。
- ③立体図形について理解すること。
- ④資料を分類整理すること。

◇指導の改善ポイント

- ※数直線や図を用いて、わり算の答えを分数で表すことの意味が理解できるようにする。
- ※図形を構成する活動を通して、平行四辺形と三角形の面積の関係を理解できるようにする。
- ※具体物を用いた立体図形の構成活動を通して、立体図形の面と面の位置関係について理解できるようにする。
- ※資料を分類整理し表に表す活動を通して、表の意味を理解できるようにする。

## 2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### 【学習環境・生活環境について】

- ・毎日決まった時刻に就寝・起床している児童の割合は、就寝は全国値を上回っているが、起床が下回っている。
- ・ものごとを最後までやり遂げる喜びを感じている児童は9割以上いる。
- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する気持ちがある児童は、全国値を下回っている。
- ・将来の夢や目標を持っている児童は、全国値より下回っている。
- ・テレビやビデオ、DVDを観たり、コンピューター・スマートフォンを使ったゲームをしたりしている時間は、全国値と比べて短い。
- ・学校の授業時間以外で読書をしている時間が全国よりやや短く、全くしないと答えた児童が4割近くいる。
- ・家の人と学校での出来事について話をする児童は、8割以上いる。
- ・学校で友達に会うのが楽しいと思う児童が、8割以上いる。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に興味を持っている児童は、全国値より下回っている。
- ・いじめはどんな理由があってもいけないという質問に対して、全員が肯定的な回答をしている。

### 【教科・学習について】

- ・家で学校の宿題をする児童は、9割以上いる。
- ・学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しいと思っている児童は、全国値を下回っている。
- ・友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている児童は、全国値をやや下回っている。
- ・国語の授業は好きで大切だと思っている児童は、全国値を上回っている。
- ・読書が好きな児童は、9割近くいる。
- ・国語の授業で学習したことは、将来役に立つと思っている児童は、全国値を上回っている。
- ・算数の授業が好きで大切だと思っている児童は、全国値を下回っている。
- ・算数の問題の解き方が分からない時は、諦めずにいろいろな方法を考える児童は、全国値を上回っている。
- ・算数の授業で学習したことは、将来役に立つと思っている児童は、全国値を上回っている。
- ・算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える児童は、全国値を上回っている。

### 3 今後の取り組み

本校では、「よく見、よく聞き、よく考えて、みんなと共に正しく行動できる健康な子どもを育てる」をテーマに掲げ、日々教育活動に取り組んで参りました。

国語科においては、漢字学習の定着を図るため、「山五漢字検定」に取り組んでいます。また「読書大好き児童」を育てるため、学校図書や学級文庫を充実させると共に、「朝の読書」「読み語り」等の時間を設けるといった工夫により、今年度1学期の学校図書貸出冊数が昨年度同期に比べて倍増し、約4,000冊になりました。

算数科においては、一人ひとりを細かく見ていくための少人数指導や、計算力の定着を図るためのダイヤモンド大作戦を引き続き実施するとともに、「思考力」を育てるための授業の工夫を行っています。

日々の授業においては、落ち着いて学習に取り組めるよう、チャイムと同時に授業を始める、席を離れる時には椅子を入れる、下敷きを使うといった学習規律を身につける指導にも力を入れて取り組んでいます。

今回の学力調査では良好な結果が得られた項目もありますが、十分に学習内容が理解できていない部分もあることが分かりました。

これからも各教科における基礎・基本的な知識・技能の獲得を目指すと同時に「自分の考えをまとめる」「考えた根拠を示し、表現する」「応用問題にも粘り強く取り組む」ことができるよう、工夫を重ね、学ぶ意欲を高める授業作りを進めて参ります。

生活習慣に関する結果からは、規則正しい生活を心掛ける必要があることが分かります。また、コンピューター、スマートフォンを使ったゲームをする時間は全国より短かったですが、犯罪などに巻き込まれないためにも、使用方法や時間を決めるなどのルール作りをしていくことが大切です。学校でも、4・5・6年生に向けて「携帯電話安全教室」を開き、全児童に向けて先の「秋の人権講演会」で「スマホやネットに潜む危険」と題し、この大切さを伝えています。

学習環境に関する結果からは、ものごとを最後までやり遂げることに喜びを感じる児童が多数いることが分かりました。一人ひとりが更に成長していくためにも、「将来の夢や目標をもち、難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する気持ち」をもつことが大切でしょう。また、新聞やニュース、地域の活動等の日常生活での体験を通して、様々な事柄に興味や関心を持つことも、子どもの心身の成長につながると考えています。

教科・学習に関する結果からは、国語・算数の授業で学習したことは将来役に立つと思っている児童が多いことが分かりました。その気持ちを大切にし、一人ひとりの児童に応じた学力の向上を目指し、ご家庭と十分連携をとりながら、児童の自立と幅広い学習の機会を作っていこうと考えております。

今後ともご協力の程よろしくお願い致します。